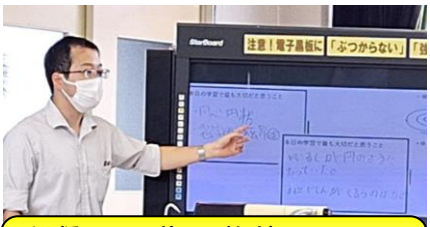
最上の子どもたちのために
未来へ紡ぐ
◆ 最上教育事務所指導課通信
◆ 令和６年１２月　２日
◆ 最上教育事務所指導課
◆ 第　７　号

「チーム MOGAMI」公開授業研究　令和6年10月22日(火)

指導課通信第2号にてお知らせしたように、今年度も「授業づくり研修会『チームMOGAMI』」を実施しています。中学校理科部会は八向中学校　大類正英先生、舟形中学校　後藤秀平先生、鮭川中学校　川田慶一先生の3名がチームとして授業づくり（単元づくり<評価規準含む>検討会、指導案検討会）を行ってきました。10月22日に新庄市立八向中学校を会場に公開授業研究会を実施しました。当日は山形大学名誉教授の中井義時先生を講師にお招きし、授業への指導・助言をいただくとともに「教科の本質を捉えた基礎・基本の確実な『習得』を目指した単元づくり」について講義していただきました。（指導案は別紙送付）



大類　正英　教諭（八向中）
理科「電流とその利用
第２章『電流と磁界』」

授業の様子

協議の様子

参加者の声

・課題に対して生徒たちが一生懸命試行錯誤する姿から，教師の教材に対する思いを大切する必要性や理科という教科の魅力を再確認できました。

・中井先生のお話では、特に理科における資質・能力の整理に関するお話が勉強になりました。

中井先生より

授業づくりのよさ
- 分解と作る活動を入れた単元構成→活動を通して教えたい内容を習得させることができる
- 評価の場面・方法・規準の明確化→C 評価の生徒への支援計画の作成が素晴らしい
- 学校課題に留意した授業づくり→学校研究の視点が普段の授業から生かされている

教科の本質（資質・能力）を捉えた基礎・基本の確実な「習得」を目指した単元づくり（理科）
① 探究型学習を核とする
② 前学年までの学習レディネスを踏まえる→学び方は小学校からつながっている
③ 日常生活との関連を図る
④ 「NHK for School」を活用する→家庭学習における反転学習や復習に使える
⑤ 大単元のデザインを基に各章（小単元）の構成を考える

チーム MOGAMI メンバーの声

・単元計画を意識して指導案を作成することで、学習内容のつながりやそれに基づいた評価を検討することができました。また、チームの先生方からご助言いただき、教具の作成や生徒が「根拠を持って仮説を立てる」にはどうすればよいか、吟味できました。チームの先生方、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました！　（八向中　大類　正英　教諭）

・チームで単元計画をつくることで、「物作りを通して電流と磁界を身近に感じる授業」という今までの自分にはない視点を取り入れることができました。また、モーターカーが上手く動かず、自分だけで授業準備を進めていたら諦めていたと思うが、他の先生方と情報を共有できたことで、授業を最後まで行うことが出来ました。　（舟形中　後藤　秀平　教諭）

・生徒につけたい力を明確にし、ねらいをもって単元構成をしていくことの大切さを学ぶとともに、魅力ある授業の裏には授業者である先生の創意工夫と努力があるということを改めて実感しました。この度は貴重な経験をさせていただきありがとうございました。　（鮭川中　川田　慶一　教諭）

令和６年度

教科担任マイスター県内グループ研修

令和６年１０月２９日（火）　会場：舟形小学校　６年生　外国語　単元：Unit５　We live together

最上地区の教科担任マイスターである吉浦恭介先生が外国語の授業を公開しました。「発表のレベルをアップさせるために、先生方に絶滅危惧種の動物について、繰り返し紹介しよう」という課題でした。児童はこれまで調べた絶滅危惧種の動物をスライドにまとめた上で、短い英文を繰り返し発表し、自分自身の発表の質を高めていました。初めに、ペアに発表し、現時点での評価をしてもらいました。その後、ペアで参観されている先生方に対して繰り返し発表を行い、発表の質を高めていきました。また、最後にペアで発表し、もう一度評価をし合うことで自分の伸びを実感していました。

評価の視点を児童と共有することで、子どもたちはルーブリックに沿って、相手に伝わるように発表の質を高めようとしていました。吉浦先生は、児童が発表しやすい雰囲気を作ったり、子ども同士が評価し合う場面を設定したりすることで、児童の発表の質が高まるような工夫をされていました。

○より良い授業づくりのポイント

- 取組む課題を一人ひとりが選択することで主体性が生まれた。
- ２人ペアで発表を行うことで安心感が生まれた。
- ＩＣＴの活用が発表の補助をするツールとなった。
- 評価規準を児童と共有することで、児童にとって目指す姿が明確になった。

令和６年１１月　８日（金）　会場：日新小学校　５年生　算数　単元：「単位量あたりの大きさ」

教科担任マイスターの大澤拓郎先生は、校内ＯＪＴを推進するために、日常的に若手の先生方の授業づくりに協力をされており、５年生の担任団３人は、日常的に一緒に授業づくりをしています。

この日は、５年担任団を代表して新規採用から２年目の井上航汰先生が算数の授業を公開しました。「単位量あたりの大きさ」の単元の１時間目の授業で、「ハンバーガーショップでドリンクを買います。一番お得なのは、S,M,L のうちどのサイズでしょうか。」という問題でした。単元の導入にあたり、児童にとって学びの必要感のある問いでした。量と値段が異なる数量をどのようにして比べるか、児童は様々な方法を考えていました。井上先生はその思考を丁寧に見とり、発言を共有したり、思考を深めるために問い返しをしたりして、児童の「わからなさ」や「難しさ」に寄り添いながら授業を進めていました。

新規採用から２年目の井上先生にとって、先輩の教員と一緒に授業づくりを行う経験は、授業力の向上につながっています。

○授業づくりをしている井上先生の感想

一人で授業づくりせず、先生方には、色んな授業づくりに協力してもらっています。また、いつでも相談できる体制があるので、常に学年団の先生に相談しています。相談することで、違う視点をいただき、授業づくりに大いに役立っています。